

校長室から SEASON1 NO.42 R8.1.15



3学期始業式 2026年がスタートし、3学期始業式を迎えました。

私は2学期終業式で「自ら動き出すためにやること、目標を決めてくるように」という話を引き合いに出し、決めている人は行動に、決めていない人は早く決めるように話をしました。次に2点「バランスを意識しよう」「周りに見られていることを感じること」ということを伝えました。バランスにはいろいろなものがあります。多様性を認めるということでは考え方が違う場合もお互いを認め、両方が活かされるようにしていくことやオープンハイスクール

や入試説明会の実績から本校への関心(私学への関心の高まり)を感じており、町内の餅つき大会会場として来校される方も多いことや授業料に対する国の補助がかなりの金額出されることで私立高校への関心は高く、その分厳しい目で見られることになるので、校外でのマナーについて意識してほしいことを伝えました。全校集会では、女子バスケットボール部、男子バーボン部、空手道部の表彰の後、生徒指導部長からの訓話がありました。長期休業明けは何かと気持ちも後ろ向きになりがちですが、次年度の準備と今年度のまとめをする重要な時期でもありますので、一人ひとりが自覚を持って高校生活を送ってほしいと思っています。よろしくお願ひします。

山本通4丁目自治会主催餅つき大会 1月12日山本通4丁目自治会主催の餅つきが行われ、空手道

部と生徒会が参加し手伝ってくれました。私も温かい豚汁をいただいたのですが、この日は天気は良かったものの底冷えがして、指先まで冷たくなりました。餅つきや豚汁、できあがった餅の配布など積極的に手伝つてくれました。ありがとうございました。



10:30以降は小学生もたくさん訪れ、とても盛り上がりを見せっていました。このような形で本校のことを知っていただくことは本当に大事だと思いました。地域の方々もこういった場所があるのは有り難いとおっしゃっていただき、地域とふれあえる機会の少なくなった昨今、貴重な行事とも言えそうです。餅つき行事はこの後もそれぞれの地域であるようですが、担当される方の高齢化に伴い、存続することも難しくなってきているところもあるようです。私が但馬や丹波で勤務していた頃はそういったことが現実のこととして不安視され、地域の行事削減が行われていました。高校生が手伝いをしても伝統的な行事はなかなか伝承にくく、移住で来られた方にも受け入れられなければ継続できません。今後益々こういった問題はそれぞれの地域で出てくると思われますが、継続できる間はしていただきて、私たちも地域に貢献できる範囲で参加せなければと思います。

1・17追悼行事に向けて 1月15日朝、1・17追悼行事として31年前の阪神淡路大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げ、私から講話をさせていただきました。当時、私は2年担任として修学旅行の引率をしており、地震のあった日は黒姫高原にいました。ですから地震の揺れを経験していません。その日の朝、体調不良生徒を起こしに行って、そのニュースを知りました。朝食前のロビーでは生徒たちが食い入るようにテレビを見ていたり、携帯電話のなかった時代でしたので、公衆電話に殺到して自宅に連絡を取っていたりしていたことが今でも思い出されます。修学旅行3日目早朝のことでしたので、後1日半の実習が残っており、できる者は実習に参加するようにしましたが、今から思えばそんな気分にはなれなかったのではないかでしょうか。私も実家に連絡が取れたのは昼過ぎのことでした。学校へは当初、夜行列車を利用して戻ってくる予定でしたが、JRが不通となっており急遽バスをチャーターして学校まで18時間かけて戻ってきました。六甲山を越えて初めて地震の大きさを実感することとなり、生徒の家族が犠牲になったという事実も帰校後に判明。学校生活も3月末まではかなりの制限を受けました。私は避難所対応を約2ヶ月半、学校に泊まりながらしました。地震直後の混乱を知らないことで、何かしら引け目を感じながら避難所運営に関わりました。当時のことをどのように伝え、今後の災害対策に活かしていくかが今後の課題とされていますが、想定できることを準備し、人と人のつながりを大事にしていくしかありません。この機会にしっかりと振り返ってみたいと思います